

ステンレス材の 連続自動切削加工に強み

納期
相談
コスト
相談
海外
イン
ジャパン
量産
対応



得意とする精密切削加工

業務内容
一社に依存せず
納入先は多岐にわたる

NC（数値制御）旋盤を使った金属切削加工を主業としている。特にステンレス材など難削材の切削加工が得意で、売上げの70%程度をステンレス材加工が占めている。直径3mm〜50mmまでの丸棒を加工できるほか、六角材の加工も手がける。

創業者である梁川喜則会長の「一社に依存することはしない」との方針から、顧客は自動車部品メーカー、船舶部品メーカー、コンベアチェーンメーカーなど多岐にわたっている。各メーカーと長年にわたり信頼関係を築いてきたため、平成20年のリーマンショックで一時大幅に落ち込んだ売上げも、その後は順調に回復した。

強み
品質へのこだわりと
製品の美しさで高い評価

「太喜精工」は多種多様で高品質な量産品を安定的に届けられるため、顧客からも大きな信頼を寄せられている。品質へのこだわりから製品の全数検査を実施。創業以来培ってきた刃物研磨のノウハウを生かして、精度の高さだけでなく仕上りの美しさでも高い評価を獲得している。

20mm以下の小径品を加工する業者としてスタートした同社だが、現在の工場が完成した平成13年には大径品を加工できるNC旋盤を導入。現在は10台以上の小径品を加工するスイス型自動旋盤に加えて、大径品加工のNC旋盤も5台保有。多様な注文に応えている。

設備増強
大径品対応の
NC旋盤1台増設へ

すべての旋盤に、材料を自動で供給し排出する装置「バーフィード」を取り付けて

いるため連続自動切削加工が可能で、量産品を短納期で顧客に納めることができる。特に大径品は量産できる加工業者が少なく、今後も高水準の需要が予想される。これに対応するため、2019年には6台目の大径品対応NC旋盤を導入する計画だ。

また、こだわりのある検査体制も充実させる。現在のデジタルノギス、マイクロメーターなどの検査機器に加え、新たに画像寸法測定器の導入を検討している。全数検査のさらなる効率化を進めていく計画だ。

今後の展望
ステンレス以外の
金属部品加工も視野に

得意分野の1つである自動車部品加工は、EV（電気自動車）の普及により部品点数の減少が予想されており今後は、需要の大幅な伸びは期待しづらい。このため、センサー部品や食品関係の部品など、需要が大きいと思われる分野でさらに力を入れていく。

素材としては、優れた耐食性と強度を持ち石油化学系設備などに使用される二相ステンレス鋼が有望とみており、これを使った部品の加工技術で需要を開拓する。ステンレス以外の鉄、非鉄金属の部品加工も視野に入れているが、品質第一で顧客の信頼を得る堅実経営を貫くため、樹脂加工への進出は当面考えていない。



大径品加工のNC旋盤



こだわりの加工製品

当社の歴史



父である梁川喜則が、昭和58年に大阪府門真市内で当社を創業しました。当時、NC旋盤はあまり普及しておらず、カム式自動盤を数台購入して事業を始めました。人の手による高度な技術が必要でしたが、それが品質へのこだわりという当社の伝統につながっています。

代表取締役 梁川 承日さん

<http://www.taiki-seikou.com/>

主な事業内容
産業用機械の精密金属部品
切削加工

主な取引先(納入先)
自動車部品メーカーほか

●住所 〒571-0043
門真市 桑才新町5-1
●TEL 06-6916-7304
●FAX 06-6903-0900
●創業 昭和58年5月
●設立 平成3年5月
●資本金 1,000万円
●従業員 3名